

(別紙4) (西暦) 2021 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871600128		
法人名	社会福祉法人 尚生会		
事業所名	指定認知症高齢者グループホームかさまグリーンハウス		
所在地	茨城県笠間市福田3199番地		
自己評価作成日	2021年6月19日	評価結果市町村受理日	2021年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JivovocCd=0871600128-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年9月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・高台にある施設なので、緑に囲まれ、四季折々の花々が咲き、いつも季節感が感じられます。落ち着いた雰囲気の中で暮らす事が出来ます。
 ・共同生活の中で、その人らしさを失わず生き生きと過ごして頂けるよう職員、入居者とも暖かな人間関係を築いています。
 ・外部の利用者を迎える共用型通所介護を実施することで外部との交流を持つ事が出来ます。
 ・受診は定期的に行っていますが、買い物、外食、ドライブ等については、コロナ禍の影響により実施出来ておりませんが、施設で楽しめる行事を考えながら行っています。
 ・特養施設併設の為、重度化した場合や災害時等に事業所の同士の支援体制があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から離れた高台にある、笠間市で最も早くに開設された高齢者施設である。過去に災害の経験も無く、静かな里山を思わせる環境である。隣接する特養と協力体制をとりながら運営するユニットのホームは、木造で温かさを感じる。一見して施設という感じはなく、玄関も一般の民家のような。今回の自己評価は全職員が取り組み、管理者がまとめた。職員からは「日頃気づかない新たな発見があった」「新たな目標が見つかった」という前向きな姿勢が見られた。法人としても、職員教育に力を入れ、働く意欲を引き出す努力をしている。***新型コロナウイルス感染症予防の観点から、訪問調査は通常より時間を短縮し、簡潔に実施。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年間行事計画書、毎月開催する勉強会、及び法人全体研修(新型コロナウイルス感染症の状況を確認しながら)実行している。	法人の理念を基本とし、利用者の声をしっかりと聞いて、一人ひとりに合わせた介護を目標に実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症の影響で外部との交流が出来ない状況です。	コロナ禍で現在は難しい。関わりのあったボランティアの方々も自粛されている。代わりに職員が生け花、茶の湯、工作等に取り組んでいる。コロナ収束後にはボランティアとの関わりを再開したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話、お手紙等で現在の様子や病院受診時の、お薬の変更、本人からの伝えて欲しい内容について、随時連絡行っております。また、入所希望者については、パンフレット、利用料金等郵送、短時間で訪問して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催ですが、コロナ禍のため書面での開催となっております。その為、サービスの状況報告や構成委員との意見交換は、電話で行わせて頂いています。	コロナ禍で対面での会議はできていない。運営推進委員のメンバーに資料を届け、書面報告で開催としている。意見よりは労いや励ましの言葉を戴く事が多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でホームの状況を伝えていきます。毎月、入居者の人数を伝えていきます。相談や質問等と電話や訪問で連携をとっています。	社会的入所の相談や、生活保護受給者の利用で行政とのやりとりがある。行政とはメールやFAXなどでのやり取りが主で、ホームからの連絡もメールである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、毎月職員会議の中で、拘束についての議論や検討を行い全職員に周知しケアの取り組みを行っております。	身体拘束適正化検討委員会を立ち上げ、月1回検討している。利用者の特性を見極め、それぞれの対応の仕方を勉強会で話し合う。安全性と危険回避など総合的に考えて行く。話し合った内容は、運営推進会議でも見てもらう。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、職員会議の中で高齢者虐待防止委員会として会議を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加が出来ていませんが、勉強会等に取り入れ話し合いを蓄けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明には、分かりやすい言葉を選び、納得して頂ける様に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関等に意見箱を設け、意見、要望等を書いていただいている。面会時家族の意見を大切にし、会議等で検討しています。	日々の支援の中で利用者から意見を聞き反映している。コロナ禍のため面会制限をせざるを得ない状況だが、利用者の情報を詳しく伝え、家族に安心してもらおう。地域の感染状況を鑑みながら、面会方法を工夫して行きたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が話しやすい環境や雰囲気作りが心がけ、何時でも相談や意見を言える様になっています。独自の意向調査があり、職員の職場環境の向上に努めています。	月1回会議を行い、意見交換や伝達研修を行っている。人事考課制度を取り入れ、年2回、振り返りを含めて評価している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の目標管理、人事考課等により、自己評価を通して、向上心や能力開発に努めながら働ける様に整備されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人職員研修に基づき内部研修を実施しています。経験に応じた資格取得を支援しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換を行い、サービス向上へと繋げています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り多くの方に対して、声掛けを行い聴く事により信頼関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話にて小まめに入居者の状況を報告しています。不安な事や要望等を確認しています。また、近況報告等で状況報告を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞いた上で、必要としている支援内容を見極め、周囲と相談しながら対応出来る様努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の立場や気持ちを理解し、孤立せず一緒に生活出来る様に支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時の声掛けや受診の付き添いを可能な限り家族にお願いしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活環境を理解し、思い出の身の回りの物に囲まれた生活が継続出来る様努めています。また、思い出の場所に行く事も支援しています。	馴染みの人は家族、親戚、友人など。利用前の事前調査で、家族構成や生活環境を理解することで、自宅での生活に近い状態を継続できる。思い出の場所として、自分の実家の話がよく出てくる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しない様、共同作業を実施したり、会話が出来る機会を作り交流出来る様努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も支援が必要な利用者・家族にはいつでも相談が出来る様に、受付は常時行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の思いや今後どのように生活していきたいのかを把握する様に努めています。本人の希望や意向を言葉で頂ける様に支援しています。	昔、洋服をされていた方が雑巾を縫ったり、ほつれものの補修をしてくれる。機械編みされていた方は、編み物の話題に嬉しそうになる。自宅からテニスやバドミントンのラケットを持ってきた方もいる。カラオケ仲間の話題になったり、童謡や懐かしい歌謡曲を歌う方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに記入されている生活歴・生活環境等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の日常の様子をアセスメントシートに記録し個人のケースファイルにも経過が記入されています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	直接ご本人ご家族と話し合ったり、電話で要望を聞き、また、職員間で意見を出し合う事で現状に合った計画を作成しています。	居室担当と話をして情報をもらう。利用者が求めていることを引き出すのが難しいと感じている。家族に聞きにくい事もあり、反応や言葉を聞きながら考える。モニタリングは計画立案時に合わせて行う。個人の様子が細かく記録されておりわかり易い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、実践したケアの評価を職員間で共有し、計画の見直しへと繋がり、行かせる様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決まったサービスのほかにも、その時々生まれたニーズに対して、可能な限り対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での民生委員の協力や避難訓練では、消防署との関りがあります。生け花・理髪ボランティアの方々にコロナが落ち着いている時に、密を避けながら来て頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望されている医療機関で利用されています。週1回の看護支援を設けており、医療機関での早期受診に繋がっています。場合によっては主治医との電話等の連携をとっています。本人・家族と共に職員も受診に付き添っています。	通院は家族の付き添いが基本となっているが、職員の同行も可能。週1回、訪問看護の支援を受けており、処置の仕方など、医療面でのアドバイスももらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護支援時に、状態、状況報告を行っています。不安や心配事の相談や指導も受けられます。常に隣接する特養看護師などでアドバイスを受けられる状況です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されてからも情報交換に努め、医療機関との関係作りを実施しています。情報収集や意見交換等を行い、退院時の対応に備えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りは実施していないが、重度化した場合の対応をご家族と確認しています。重度化に備えて、他事業所と相談連絡を行っています。	看取りの必要性は十分に感じており、ニーズに応える準備をしている。職員の気持ちをくみ、研修も含めて何が必要かを見極めながら順序だてて進めていきたい。終末期と思われる段階で家族が直接主治医に相談する機会を作り、ホームでの対応も含めて話し合う。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法は、勉強会を通して対応や方法について、常に念頭に入れ勉強しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、母体施設中心に実施し、消防署による指導を受けています。また、独自に日中、夜間想定で単独で避難訓練を行っています。	高台にある為、水害の心配はない。雷による停電を経験したとき、利用者が不安になったので、ランタン購入した。非常時の連絡は自宅が近い順で、一番近い職員は5分で到着できる。夜間火災時の連絡手順に少し不安がある。	夜間非常時の連絡体制を、再度職員の実態や意見を聞きながら見直すことで、利用者の安全と職員の不安解消に繋がることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のプライバシーに気を付け、気持ちに寄り添った丁寧な言葉で話す様にしています。	それぞれの生きてきた過程を考え、生活史を考慮した言葉遣いを心掛けており、個人にあわせて使い分けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを大切に、自己決定に繋がられる様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で、本人のペースに合わせて支援しています。出来る事と出来ない事、興味がある事を見極め、個人の希望に沿った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に合った衣類選びや購入等に付き添う支援をしています。移動美容室による散髪を定期的にご利用しています。また、希望がある時は、馴染みの美容室、理髪店にお連れていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の準備や後片付けを個人の状態に合わせて、職員と一緒に実施しています。	食材は昨年から業者に委託。お楽しみ献立、誕生日会の特別メニューなども提供している。麺類やパンの希望があり献立に組み込んだ。おやつにパンケーキを提供し、利用者がトッピングを楽しむ事もある。後片付け、テーブルふきなどを手伝い、職員と会話しながら楽しく食事をされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の管理栄養士による献立表を参考に調理しています。食事・水分摂取量にも気を付けています。また、個々の状態に合わせて粥食・刻み、ミキサー食等も提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは個々の状態に合わせて、声掛け、見守り、一部介助、全介助にて支援しています。また、入れ歯洗浄剤を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄のパターンに合わせ、見守り、声掛け、介助などの支援をし、トイレでの排泄を促しています。	排泄は様子を見ながらタイミングを見計らって声掛けする方と、時間で誘導する方がいる。パット類は家族に用意してもらい、不足した場合は預り金から購入している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中で水分の調整を行います。また、受診での診察結果次第では、下剤等の服薬も利用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員が、声掛け、一部介助が必要であり、心身の状態に合わせて入浴をおこなっています。入浴剤の種類をかえるなどして、入浴を楽しんで頂いています。	入浴にこだわりがある方や、あまり乗り気でない方など、臨機応変に工夫しながら入浴してもらおう。ゆず湯は人気があり、入浴剤を楽しむ方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況、本人の希望に合わせて休息して頂いています。シーツ等は定期的に、必要に応じて交換しています。季節に合わせて寝具類を調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬処方時の確認と、申し送りノートへの記述で全職員が把握しています。服薬によっては、症状の変化を記録し確認しています。また、看護支援日に情報提供しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のある事、楽しみたい事、望む事を中心に無理強いせず支援しています。施設行事の支援も実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響により、実施していません。	遠方への外出は控えているが、施設の周りの散歩程度は継続している。自然が多く、気分転換や日光浴には十分な広さがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人1人の能力に合わせてお金の管理をしています。希望により、ご自分で管理出来る方は管理して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたり、頂いたり、年賀状、手紙を頂いたものは、部屋に保管していつでも見られる所に置き、喜んで頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったり、季節に合わせた貼り絵や壁掛けを入居者と共同で作成し、ロビーや廊下に飾り付け、居心地良く過ごせる様に工夫しています。	木造で落ち着いた雰囲気があり、季節の飾り付けで見当識への配慮が見られる。天井の梁には手作りの弦に実っている葡萄が見事であった。壁には、職員と利用者が一緒に作った迫力ある大きな赤トンボが飾ってあった。利用者それぞれが作ったお月見のリースやコスモスの額などで季節感にあふれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ロビーで気の合う利用者同士でお話し、パズル、テレビ鑑賞などで、過ごされています。独りになりたい方は、居室で自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を取り入れ、住みやすく、居心地良く過ごせるように工夫しています。	居室には洗面所が設置されており、ベッドは木製、介護用、低床ベッドなど様々。居室の大きな窓からは緑豊かな風景が見え、部屋にはなじみの椅子やご家族の集合写真が飾られていた。室内も木目調の落ち着いた雰囲気になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置をしたり、歩行が困難な方には車椅子やシルバーカーを使用し、自立した生活が送れる様に支援しています。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームかさまグリーンハウス

目標達成計画

作成年月日 : 2021年12月7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間非常時の連絡体制を、再度職員の実態や意見を聞きながら見直すことで、利用者の安全と職員の不安解消に繋げることについて検討が必要。	夜間時の避難について連絡体制は、緊急連絡一覧表をもとに全職員に連絡を行える事と、消防署、警察署、隣接する特養宿直者との連携をして避難にあたる。	緊急連絡一覧表をもとに、シュミレーションを行い、全職員、消防署、警察署、宿直者との協力体制、誘導方法については、常に避難方法を念頭に入れ業務にあたると共に、災害時の連携を図ります。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。